

一吉綴り Ichikichi-tuduri 「加飾紙の日々・第四号」

2017年08月吉日 記：一色清

加飾紙とは、伝統的材料・図柄・技法・美意識を尊重し、暮らしを潤し豊かにすることを目指し開発した当社の室内装飾紙です。

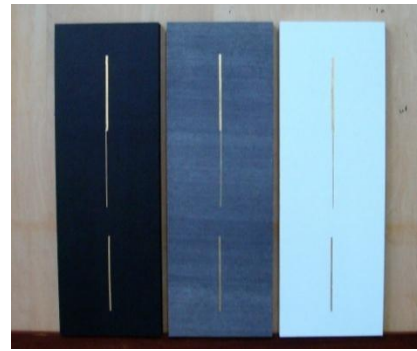
盛夏の候、貴社ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。
微力ではありますが、日々重ねている加飾紙についてお伝えいたします。

*東京手仕事様と文京区伝統工芸会様について

最近、多くのお仕事やお役目をいただきまして感謝しております。
また、おのずと多くの工芸士様やデザイナー様の工芸品と接する機会が増え、工芸品について再確認をいたしました。詳細は後述にて。



「東京手仕事 香り紋」



「新規 無彩パネル」

*東京手仕事「香り紋」の発信予定・・・新商品「無彩パネル」展示予定

8月1～3日

歌舞伎と手仕事 歌舞伎座3階「花籠」にて「香り紋」など展示販売

8月末発刊

9月よりカタログギフトに「香り紋」掲載（発刊前につきカタログ名非公開）

8月30日～9月2日 ギフト・ショー **LIFE×DESIGN**

東京ビックサイト東7・8ホール「香り紋」「札入れ四季彩」「無彩パネル」展示販売

9月8～12日 **メゾン・エ・オブジェ・パリ**

会場 Paris Nord Villepinte 「香り紋」「無彩パネル」 展示予定

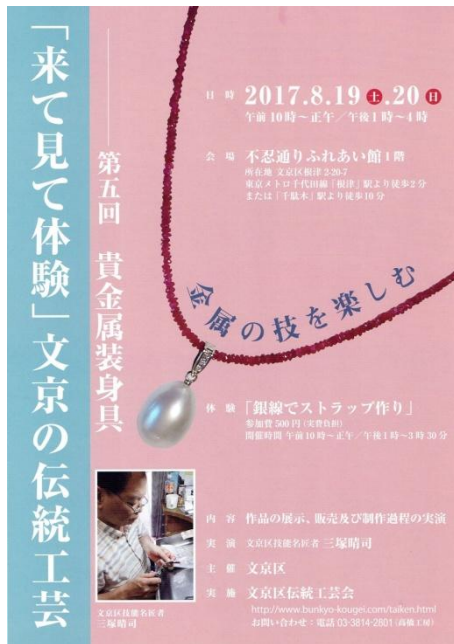
11月20～22日 **IFFT**

2018年1月26～29日 **HIMI Milano**

*東京手仕事「香り紋」テスト販売予定・・・新商品「無彩パネル」展示予定

9月6～19日 玉川高島屋様
10月18～31日 日本橋三越本店

*文京区伝統工芸会のイベント予定



毎月1回の会を重ねて第5回目です。この機会に、是非、ご参加ください。

8月19.20日 ワークショップ「来て見て体験」

第五回 貴金属装身具 三塚晴司 会場 不忍通りふれあい館1階
当社は、第12回 2018年3月17.18日予定です。

10月8～15日 下町祭り

会場 不忍通りふれあい館1階

11月17.18日 文博

会場 文京区役所

*工芸品について

流れ

明治6年ウイーン万国博覧会のころに、「applied art」「craft」に当たる言葉として「工芸」が使われます。・・・対する「fine art」は「美術」に。

明治30年ごろに、

工芸＝工業（手工業しかなかった）から機械工業の実質化により、「美術/工芸/工業」が分離します。ここで工芸は、用+美と手工業という括りになります。更に、歴史的には、パリ万博のころより

「優等工芸」や「個人作家的工芸」「美術の一科としての工芸」などと流動的定義が生まれ、難しくなります。ここでは割愛します。

当社でのまとめ

工芸品とは、【用+美を手工業で制作】

*加飾紙は工芸品・・・と言いたいです。

さて、当社の加飾紙と工芸品の整合性というか、はてなと思うことがあります。

例えば、

渋型手捺染（shibu pattern hand print）は、工芸品でも、シルクスクリーン印刷は、どうなの？

香り紋は、匂い香入れと用途が明確ですから工芸品で、

加飾紙などの室内装飾紙は、貼る前には用途が見え無いので違うの？ かな。

工芸品を目指すのは、

大量生産消費から離れたい。

美（ニッチな好みなども）に拘ると楽しい。

用の部分でも、新たな暮らしの提案ができそう。

（当社でも機械化を進めてきた経緯があり、スクリーン印刷機やオフセット校正機なども使用していますが、最近の開発は工芸品になりました。）

更に、伝統工芸品というと、その製造の技術・技法に100年以上の歴史を有し、製造過程の主要部分が手作りであることとあります。

私どもの初代一色吉太郎の砂子屋創業が明治40年ですので約120年の3代目なので、オーケーかも、ということで加飾紙は工芸品と言わせてください。

さて、本筋の開発品紹介をします。

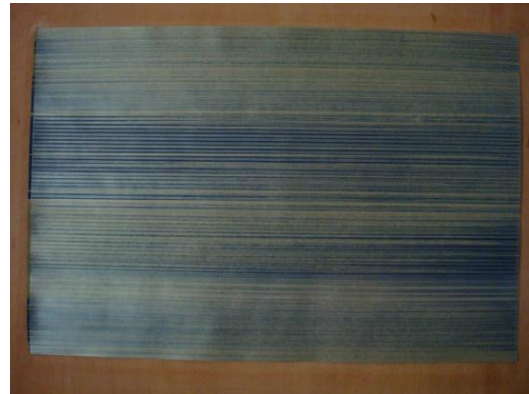
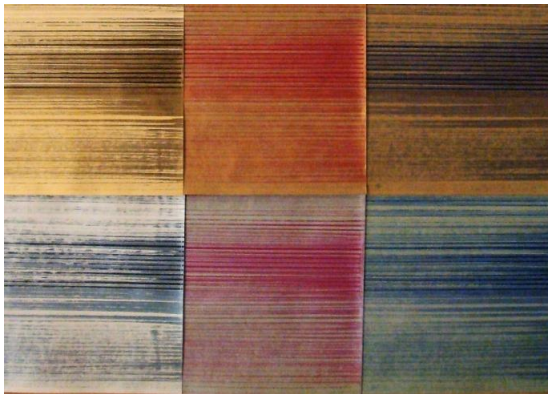
***光彩紙 SHINESS について**

2017年8月 発売 不思議な光沢 同一イメージ非同一柄

【用途】 室内装飾紙 サイズ 60-90 cm 6商品 価格¥8,800/枚

【特徴】 手業刷毛引き雲母櫛引のダブル効果

【欠点】 複雑な表情を画像表現難、実物の良さは実物で。



「光彩紙 6種類の部分」

「櫛引一文字の位置」

雲母が光ってしまうので、撮影には可能な限り暗くして、ゆっくりシャッターを落としますがこんな仕上がり…不思議な光沢感は、是非とも実物でご確認ください。

第一加工 刷毛引きについて

刷毛引きの役目は、原紙と絡み濃淡、擦れ、溜まりなどの多彩な表情を生み出します。そのために、いろいろな刷毛を試します。



「刷毛」



「櫛」

第二加工 雲母櫛引について

基本的に、櫛は作ります。雲母は、特に重いので、櫛の消耗も早いです。

*無彩パネルについて

【無彩パネル 野毛三一二】

2017年8月 発売

「無彩」の技術でインテリアパネル

【用途】 室内装飾紙 サイズ 45-15-2 cm 3商品 価格¥12,000/個

【特徴】 墨・具墨・胡粉刷毛染地に3-1-2mmの本金箔

【欠点】 本金箔細工「野毛技法」膠（にかわ）仕立てのため、
表面を雑巾などで強く擦ると傷みます。



「野毛三一二 胡粉」



「野毛三一二 具墨」



「野毛三一二 墨」

デザインと職人の手業について

デザインはシンプルに・・・もっと飾りたいのを我慢。

刷毛染の天然材料の墨（inkstick）・具墨・胡粉の味わい。

本金箔細工「野毛技法」三千本膠（sanzenbon glue）仕立てです。

「三一二」とは、

金箔(gold leaf)を切って作る「野毛」の幅を3mm、1mm、2mmのことです。

1ミリの違いを活かすデザインなので、可能な限り正確に切ります。

基本的に、中心にまっすぐ置きました。(つもりです。)・・・結構、胃に来ます。



中には、このような出来もありまして。

*天然材料と伝統手業の加飾紙 「無彩 NOCOLOR」 について
2017年6月1日発売開始しております。



無彩 12 種



無彩使用天然材料 (natural material)

すみません、ここは、先回の繰り返しです。・・・ここから生まれたパネルです。

この度より、海外展開を夢見て、専門的用語を英語表記を付けてみました。
誤りに気付いた方は、小さく笑って、そーっと小声でお知らせください。

・・・では次回

WEB ショップ「一吉」店主 (有) 湯島アート 一色清
住所 (柏工場) 〒277-0863 千葉県柏市豊四季 945-448
FAX 04-7144-2669
✉ issiki.kiyosi@maroon.plala.or.jp
<http://www.yushima-art.co.jp>

